

第4学年 総合的な学習の時間 学習構想案

菊池市立戸崎小学校 教諭 藤吉由美子

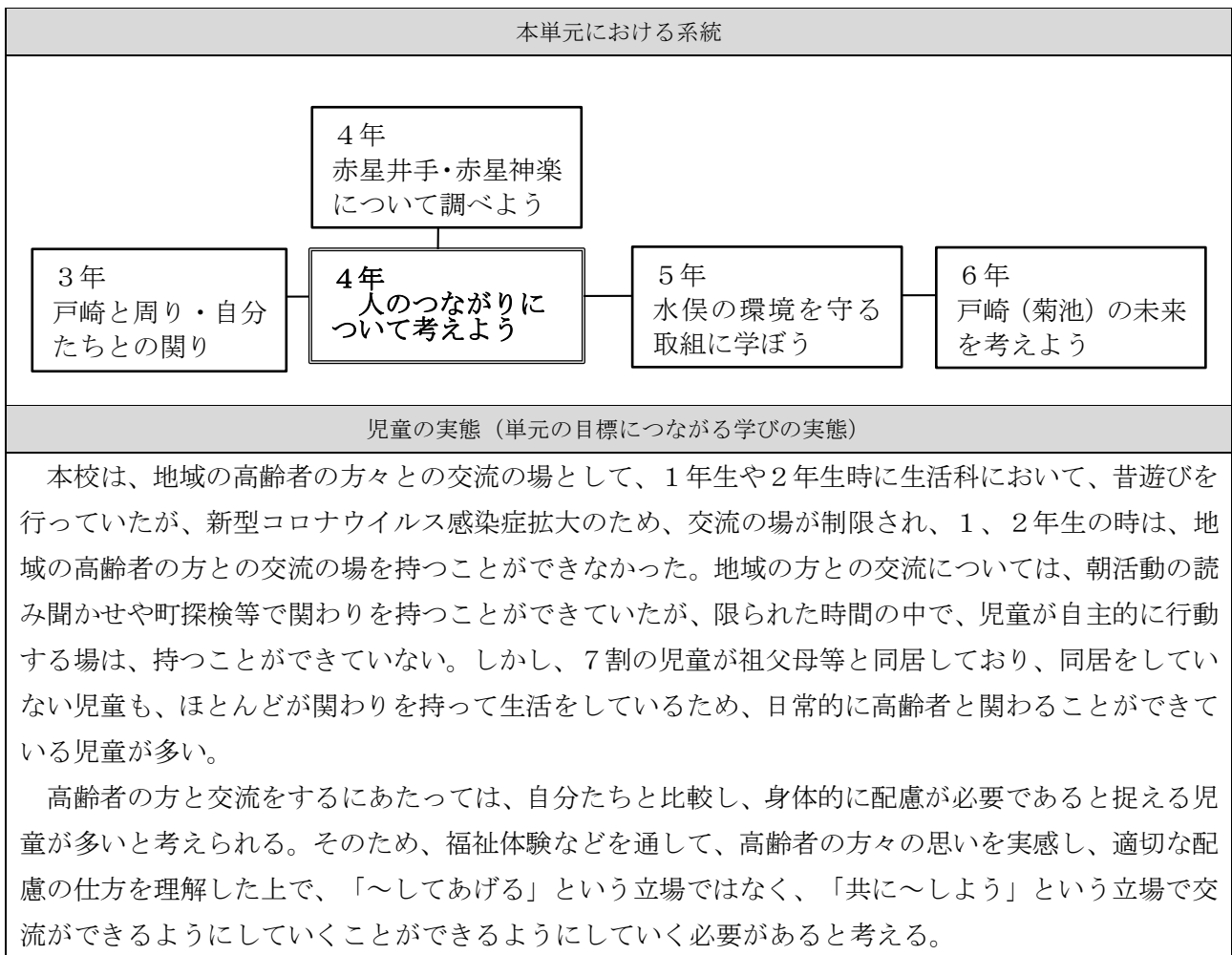
1 単元構想

		人のつながりについて考えよう	
単元の目標		福祉体験を通して、高齢者の方の身体的な変化とそれに伴う配慮等を理解し、地域のサロンに参加する際の工夫に生かす。そして、地域の高齢者の方とのつながりを深め、様々な立場の方との共生について考える。	
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 福祉体験を通して高齢者の方に対する配慮を理解することができる。 ② 高齢者の方々と共に楽しむことができるサロンの内容を企画し、実践することができる。	① 福祉体験で学んだことを生かし、学校紹介をすることができる。 ② 高齢者の方と共に楽しむことができるように伝え方やルールを工夫することができる。	① 高齢者の方について理解を深めるため、福祉体験の気づきをまとめようとしている。 ② 高齢者の方に積極的に関わり、声をかけようとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿、キャリア教育の視点）			
高齢者の方々と接することにより、相手の立場や気持ちを考えて行動することで、お互いに気持ちよく過ごすことができ、つながりを深めることができることを理解し、地域の方に進んで挨拶をするなど積極的に関わろうとする児童			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
高齢者の方と一緒に楽しむことができるサロンを企画して、実行しよう。		福祉について多様な角度から捉え、将来、思いやりを持ち、協力して地域で生活していくために、自分なりに行動していくことについて考え、自己の生き方を問うこと。	
指導計画と評価計画（18時間取扱い）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	5	○これまでの経験を基に高齢者のイメージマップを作る。 ○福祉体験を行う。 （高齢者疑似体験・車いす体験） ○ユニバーサルデザインについて知る。 ○認知症サポーター講座を受ける。	【態①】（シート・発言） ○これまでの高齢者との関りから、高齢者をどのように理解しているかを伝えようとしている。 ★【知①】（ノート・実践の様子） ○高齢者の方や車椅子を使用している方への配慮を理解している。 ★【態①】（ノート・発言） ○高齢者の方についての理解を深め、気づきや今後の生活に生かしたいことをまとめようとしている。

二	6	<p>○サロンに参加する計画を立てる。</p> <p>○サロンに参加する準備をする。 (○×クイズ・なぞなぞ・歌・劇)</p> <p>○サロンに参加し、学校紹介を行う。</p> <p>○学んだことを生かして活動することができたか、振り返る。</p>	<p>★【思①】 (ノート・実践の様子)</p> <p>○福祉体験で学んだ高齢者の方への配慮を考えながら、学校紹介の内容と伝え方を考えている。</p> <p>★【態②】 (実践の様子・ノート)</p> <p>○高齢者の方と積極的に関わろうとしている。</p> <p>★【知②】 (ノート・実践の様子)</p> <p>○高齢者の方への配慮を理解し、実践している。</p>
三	7	<p>○サロンの内容を企画する。</p> <p>○サロンの準備をする。 (秋祭りをして、一緒に楽しもう)</p> <p>○サロンを実施する。</p> <p>○これまでに学んだことを生かして活動することができたか振り返る。</p> <p>○みんなが住みよい町について考える。 (「見つけてみよう！人にやさしいところ気になるところ」) ※人権学習</p>	<p>★【思②】 (ノート・発言)</p> <p>○高齢者の方と共に楽しむことができるように、ルールを工夫している。</p> <p>★【態②】 (ノート・実践の様子)</p> <p>○高齢者の方に積極的に関わり、声をかけようとしている。</p> <p>★【知②】 (ノート・実践の様子)</p> <p>○高齢者の方々と共に楽しむことができるように声かけができる。</p> <p>★【知①】 (ノート・発言)</p> <p>○様々な立場の人との関わりを理解している。</p>

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)
<p>小学校学習指導要領第1の目標を受け設定された本校の目標「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」をもとに、探究課題と探究課題の解決を通して、育成を目指す具体的な資質・能力を設定し、単元を構成している。</p>
教材・題材の価値
<p>本題材は、社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題の中の福祉の課題にあたる。これらの課題のいずれもが、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、これらの課題については必ずしも正解や答えが一つに定まっているのではなく、従来の各教科の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことは大きな意義がある。</p> <p>また、実体験を伴う成功体験は、その後の実践意欲に大きく繋がっていくと考えられるため、本題材のように地域の方々と交流を深めながら学ぶことは、子どもたちにとって重要な体験になると考える。</p>



3 指導に当たっての留意点

- 児童が学んだことを実生活に生かそうとする意欲を高めるために、児童が実体験で学んだことをその後の学習において活用できるように計画を立てさせる。
- 第2回目のサロンを企画するときに、1回目よりも質を高めた交流ができたことを実感できるようにするために、第1回目のサロン参加時に、高齢者の方に感想をもらい生かすことができるようにする。
- 異年齢の方とも工夫をすれば、共に楽しい時間を過ごすことができることを実感するために、サロンを企画する際には、共に楽しむことができるような活動にすることを中心に話し合うようにする。
- サロンの運営にあたって、自信を持って活動することができるように、高齢者の方へ配慮をしたルールに対して、称賛の声掛けやアドバイスを رفتたりする。
- 活動を通して学んだことを高齢者の方と共生だけにとどめず広げていくために、まとめの学習において、様々な立場の方が住みよいまちづくりについて考える。
- サロンを運営されている地域の方と連携を図り、内容の向上を検討したり、交流後も関わりを持つことができるようにしたりする。

4 ESDとの関連

(1) 本題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・多様性・・・人には、それぞれ違いがあって、その違いを理解し合い、尊重し合いながら生活することの大切さを知ること。
- ・相互性・・・年齢や立場が違っていても様々な人と関わって、同じ地域の中で共に暮らしていることを知ること。
- ・公平性・・・お互いのことを知り合い、お互いが心地よく過ごすことができるように考えて関わり合えば、地域で安心して過ごすことができることを理解すること。
- ・連携性・・・地域の方たちと知り合うことで、つながりができ、共に生活が豊かになっていくことを実感すること。

(2) 本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
日常生活で、積極的に地域の方々と関わりを持つと行動することができているか、自分の生活を見つめ直す。
- ・未来像を予想して計画を立てる力
地域に住むすべての人が幸せに生活をしていくために、どんな行動をすればよいか考える。
- ・コミュニケーションを行う力
地域の人たちと共に協力して過ごすために、お互いのことを知り、理解し合うことの大切さに気づき、交流しようとする。
- ・つながりを尊重する態度
地域の高齢者の方との交流を通して、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを自覚し、相手を尊重しようとする。
- ・進んで参加する態度
サロンの企画、運営を通して、自分たちの活動が豊かな人間関係を築いていくことにつながることを実感し、地域の高齢者の方のために自分たちにできることはないか考え、意欲的に関わりを持つようとする。

(3) 本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正を意識できる
自分たちだけでなく、高齢者など、地域に共に暮らす全ての人々が安心して過ごせるまちづくりが大切である。
- ・人権・文化を尊重する
それぞれの違いを認め合い、支え合いながら生活できるように努めなければならない。

(4) 達成が期待されるSDGs

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 11 住み続けられるまちづくりを